

Handwritten Japanese text on aged paper, arranged in several lines. The characters are faint and difficult to read precisely, but appear to be a list or record of names and numbers.



聯合 寫眞 第四號 五年十二月廿一日

◎檢束負傷者を會場へ連れて
勞農黨大會の第三日

愛宕署の暴壓に上り修羅の大亂闘を演じた勞

農黨大會の三日日は廿一日午前十一時芝協調

會館に場内外百餘名の正私服の警戒で意想外

の緊張裡に開會、勞頭大山黨首壇上に現れ、

前日の解散及び官憲の暴行事實に對し痛烈に

論駁し午后は最も重要なる合同問題等全部を

一渦千里に議了せんとしてゐるが依然注意、

中止、檢束等喧騒裡に議事を進めてゐる。か

くする中前日重傷を負ひ慈風醫院で應急手當

の後愛宕署に留置されてゐた千葉縣の近藤志

知郎代議員が漸く午後一時釋放され全身纏帶

をまき黨員にかつがれて黨大會に出席した爲

め滿場その姿に接し氣勢彌が上にも上つた。

寫眞 は

負傷者を會場に運び込む時寫す